

10月31日(日)・大会2日目 13:10~14:40（組織論レビュー【15】会場）（90分）

●組織論レビュー セッション【15】

「組織に対する社会からの評価とその影響」

* 谷口 諒（一橋大学イノベーション研究センター 特任講師）

* 代表報告者

〔 概 要 〕

本報告は、レジティマシー（legitimacy）、レピュテーション（reputation）、ステータス（status）という3つの概念に焦点を絞り、「組織に対する社会からの評価」に関する既存研究を議論する。それら3概念は、それぞれ別々の現象を説明する概念として組織論研究に導入された経緯をもつ。しかし、その一方で、いずれも行為主体の性質あるいは能力のシグナルとして機能するために、既存研究においてしばしば混同されてきた。各概念に関する知見を体系的に蓄積していくためには、そうした概念間の混同は理解し、回避する必要がある。

そこで本報告では、各概念の定義、先行要因、そして帰結・効果を確認した上で、どのように既存研究が実証的に弁別を図ってきたのかも踏まえながら、3概念間の異同を議論する。

〔 参加者へのメッセージ 〕

「組織に対する社会からの評価」というテーマは、必ずしも新しいものではなく、「古い」とさえ言えるかもしれません。

実際、本報告で注目する3概念は、2000年以前から組織論領域で研究が進められています。しかし、だからといって、手垢のつきすぎた色褪せたテーマかということそうではありません。むしろ、再度その重要性を認識する必要性が出てきていると思います。なぜなら、現代社会では、ツイッターなどのソーシャル・メディアが普及したことで、組織に対する評価の視線がその姿を変えつつあるからです。

本報告をもとに、「組織に対する社会からの評価」の現在地を確認するだけでなく、当面の目的地を皆さんと議論できればと思います。

※組織論レビュー セッション：発表 60 分・コメント 20 分・質疑 10 分